

とちぎ う ひんしゅ 栃木で生まれた品種は？



1 女峰

1985年（昭和60年）品種登録

冬の早い時期から品質の良い果実を多く収穫できる品種として育成されました。果実の形と色がきれいで味も良く、クリスマス頃から5月まで収穫できるなど、優れた多くの特徴があり、当時のいちごを代表する品種として東日本を中心に栽培されました。



2 とちおとめ

1996年（平成8年）品種登録

女峰に代わる品種として育成されました。果実は女峰よりも大粒で甘味が強く、果肉がしっかりしていることから、

東日本を中心に急速に作付面積が拡大しました。他県でも多く栽培されているいちごの代表的な品種です。



3 とちひめ

2001年（平成13年）品種登録

果実が大粒で甘味が強い反面、果肉が柔らかくととてもデリケートな品種です。このため、いちご狩りや直売用の品種として栽培を栃木県内に限定しており、栃木でしか味わえない幻の品種です。



4 なつおとめ

2011年（平成23年）品種登録

夏から秋の収穫に適した品種として育成されました。果実は、暑い時期でも日持ちが良く、味に優れています。日光や那須地方で栽培され、主にケーキ用のいちごとして出荷されています。



5 栃木i27号（スカイベリー）

2014年（平成26年）品種登録

果実が極めて大きく美しい果形で高級贈答向けとして開発されました。なめらかな食感で、香りが良く、ジューシーでまろやかな味わいを楽しむことができます。



6 栃木iw1号（ミルクベリー）

2017年度（平成29年度）品種登録出願

「いちご王国」では初めて開発されたミルクのように白いいちごです。酸味が少なく、独特のまろやかな食感と甘さが特徴です。



7 栃木i37号（とちあいか）

2018年度（平成30年度）品種登録出願

とちおとめよりも大きく、果実をタテにカットすると断面がハート型をしています。スッキリとした口あたりで、酸味が弱く、甘さが際立ついちごです。

